

2011年度受託研究概要報告

# 佐世保市観光遊覧船のコンセプトデザイン

## 研究メンバー

- 相良二郎 プロダクトデザイン学科教授  
見明暢 プロダクトデザイン学科助教  
田頭章徳 プロダクトデザイン学科助教

## 委託者

佐世保マリンネットワーク幹事会社 エス・イー・エー  
創研

## 研究概要

西海国立公園の中心をなす九十九島は全国で屈指の多島海景観を有する観光地であり、佐世保市が建造した「海王」と「パールクイーン」という2隻の観光船が、第3セクターである「西海パールシーリゾート株式会社」によって運行されている。最初に建造された「海王」は20年を経過し老朽化が目立ってきたため、新造船を投入する計画が持ち上がり、佐世保市、西海パールシーリゾート、前畑造船、エス・イー・エー創研などによる「佐世保マリンネットワーク」が組織された。新造船は、新しい造船技術や電気推進機構など先進的な船舶とし、現海王とパールクイーンの中間的なサイズとして計画することとなった。

この新造観光船について、今後の九十九島観光を担うことができるような外観と内装のコンセプトデザインを行う。

また、佐世保市が今後の観光の目玉と考えている、佐世保港を海からも眺めることができるようにする、水陸両用船についてもコンセプトデザインを行う。



## 研究成果

「海王」は赤と黒の船体であり、少し前に内装を改装し、海賊船の雰囲気を持たせ、子供達の人気を集めている。姉妹船の「パールクイーン」は白を基調とした優雅な船体で、大人の観光客に人気である。国内外の観光船のクロスマップを作成し、新造船の位置づけを検討したが、夏休み期間中などの主要な観光客となる子供連れや修学旅行生などの満足度を考えると、海賊船という現在のコンセプトを継続させ、さらに楽しみを深めることが重要であるという結論に至った。このため、アトラクションへの参加、船内探検、冒険心を満たす仕掛けなどを盛り込み、現在の「海王」以上に海賊船として艦装することを提案した。外観の特徴としては、三本マスト、マストの見張り台、後部デッキの張り出しとキャビン、マストにかかる縄梯子、バルクヘッドとフィギュアを備えることとした。内装は円を主題として構成し、宝箱や大砲などの小物による演出と後部キャビンの船長室をキーエレメントに据えた。また、海賊の船長をスタッフとし、子供の乗客にバンダナ等で扮装させ、上部甲板の広場にてパフォーマンスを行うことを提案した。

通常バス又はトラックの水陸両用車(船)への改造には陸運局と海運局の様々な認が必要でノウハウが必要な為、日本水陸両用車協会との共同開発する事にした。

佐世保港での観光用水陸両用車の展開は、ハウステンボスでの利用状況から見てもビジネスとして成り立ち難いという水陸両用車協会からアドバイスを受け、災害時の防災利用機能を備えた観光も可能な水陸両用船を目指すことにした。このコンセプトデザイン段階で作業をストップしている。

